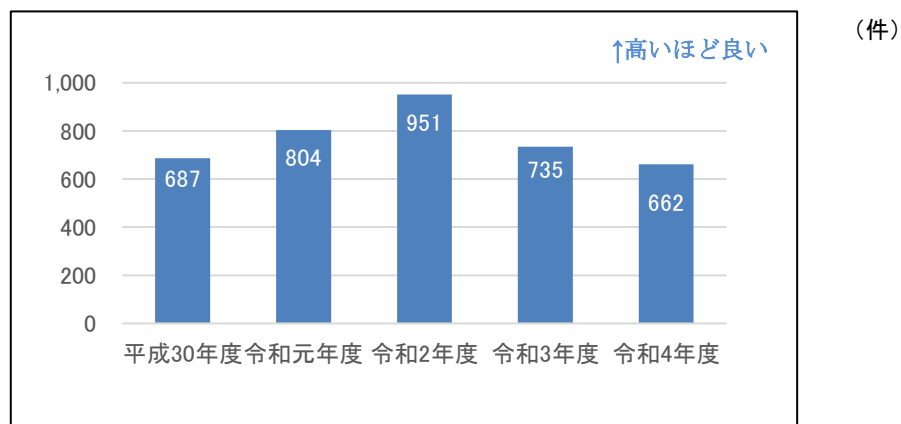


6 重症入院患者の手術全身麻酔件数

○項目の解説

「項目2 手術室内での手術件数」や「項目4 手術技術度DとEの手術件数」の難しい手術と同様、心臓の働きが悪くなる心不全という疾患をもつ患者など、重症な患者の手術を行うことも国立大学附属病院の社会的責任の一つといえます。重症な患者に全身麻酔をかけて手術する場合は、生命の危険をはじめ様々な危険が伴います。従って、手術中のみならず手術前後で十分に患者を観察し、慎重な麻酔を行える体制が必要になります。この指標は、麻酔管理の難しい重症患者の手術に必要な麻酔に対応する能力の高さともいえます。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

重症入院患者の手術全身麻酔件数は、令和2年まで急増しています。令和3、4年はコロナ禍により、重症患者に対する全身麻酔の実数は減少しています（項目の解説で述べた理由が令和4年度の件数減少に影響している可能性があります）が、依然として多くの重症患者の全身麻酔を行っているものと評価しています。今後とも、当院に課せられた責務を果たしていきたいと考えています。

○定義

DPC データを元に算出した、医科診療報酬点数表における、「L008 マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔（麻酔困難な患者）」の算定件数です。

○算式

実数